

### 「実験線の延伸工事で水枯れや霜害が」～みどり山梨(野沢今朝幸氏)

実験線の延伸や新駅で活性化を期待する人が多い。私は笛吹市に住んでいるが、市内に新駅をという地元の期待があり、JRも期待を持たせていた。結局は「傾斜地には駅は作れない」という。最初から甲府市内に決まっていたのだ。いま、リニアの夢から住民は覚めはじめている。①延伸トンネル工事で湧水が枯れた。②あかりフードが予想以上に大きいため、住宅や畑に陽が当たらなくなる日照権問題、③あかり部分もフードがあり、観光客もリニアが見られない、④巨大なあかりフードで風の流れが変わり果樹園なども霜害に苦しむ。今後は、こうした問題を踏まえてしっかり運動を進める。

### 「高齢化、後継者不足で複雑な農家の事情」～みどり山梨(石原英二氏)

新駅は甲府市街地から6キロ離れたところにある。北側に中央道、東西に住宅地がある。私はそこから1.5キロ離れたところで農業をしている。農家からはリニア反対の声はほとんどない。高齢化や後継者がいないため土地を売って農業をやめたいという人が多いからだ。駅ができれば、周辺の土地も買ってくれるという期待がある。市街地ではリニアへの関心が薄い。新聞も取り上げない。JR東海がちゃんと補償してくれるかは疑わしい。実験線でも補償は少なかったと聞いている。

### 「毎月2回、50人の学習会でリニア問題を追求」長野・飯田リニアを考える会(片桐晴夫代表)

飯田にリニアが来る話は前からあったが、2007ごろから南アルプスルートに決まって、付近に駅ができることになり、期成同盟会は「リニアはいいだ(飯田)」という宣伝をしている。市は116万円を使って「リニアは夢の乗り物」というパンフを4千部作って地元への経済効果をPRしている。考える会は毎月2回、50人のメンバーの有志が集まりリニア問題を勉強しているほか、川村(晃生)先生や橋山(禮治郎)先生らをお呼びしてシンポジウムを開いた。メディアはもっとリニア問題を取り上げてほしい。駅がどこに出来るかまだ明確でない。今日は皆さんの話を聴いて、リニア問題とどう取り組むかをつかみたい。

### 「若者に自然と未来を残すために」大鹿村の100年先を考える会(河本明代氏)

村内でリニアの調査のためのボーリング調査が行われている。そこは村の一番奥で、そこに南アルプスを貫くトンネルができれば、残土を運ぶダンプが狭い道を1日100台以上走るので生活破壊になるのではという不安がある。関心は高まっている。村民アンケートを実施したり、JR東海に意見書を出すなどの活動をしている。また、南アルプスのトンネルから斜坑を掘って、静岡県側に残土を排出するというので、先日現地調査を行った。若者に100年先も豊かな自然を残すために、リニア問題の取り組みを強めたい。

### 「リニアは何千年の自然を破壊する尊大な行為」東濃リニアの会(荻野隆一氏)

昨年2月に150人の学習会を開いて会を発足させた。今年はJR東海と期成同盟会が開催した中津川と名古屋の説明会に参加したが、9割以上の意見がリニアに反対だった。最近では地上駅ができると見られる坂本付近を現地調査した。リニアは何千年の自然を破壊する人間の尊大な行為だと実感した。土の匂い、草の匂いを嗅いだことがない人たちがリニア計画を進めている。私たちは、①今日の実験線見学でも、住宅の間近で工事が行われていた。住民の立場でリニアに反対、②JR東海の葛西会長は「無責任な群衆の声は聞くな」と原発再稼働を進める考えを表明している。おかしい論理だ、③JR東海社内では経費削減が行われている。経営を危うくするリニア事業は社員の生活を保障しない、以上の観点からリニア計画は中止すべきだ考える。

.....

休憩を挟んで第二部のシンポジウムが行われ、主催者のリニア・市民ネット代表川村晃生氏が司会、天野共同代表、みどり山梨の野沢氏、地質学者の松島信幸氏、東濃リニアの会の野田契子さんがパネラーとなって第二部のシンポジウムが行われた。会場からは、ジャーナリストの本田勝一氏、交通政策に詳しい千葉商大教授。橋山禮治郎氏、JR東海労・淵上利和委員長から意見表明があった。まとめとして、川村氏から、①1、2週間以内に各グループの代表者会議を開く、②1～2か月のうちに、組織として立ち上げるか、緩やかな連合体にするかを具体化する、③その後統一行動について具体化する、との提案があり了承された。